

令和4年2月15日  
新型コロナウイルス感染症対策専門員会議

## 広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

### 【感染状況・医療体制】

- 県内の感染者数は、1月19日から2月6日まで19日間連続で1,000人を超え、1月28日には1,599人と過去最多となった。その後、拡大傾向から緩やかな減少傾向へ転じ、県全体の直近1週間の新規報告者数（人口10万対）は、2月15日時点で221.0人となっている。
- 年代別では、1月中旬に4割を占めた20代から30代の層の割合は減少し、1月下旬以降、特に10歳未満の若年層と60代以上の高齢者層において拡大している。また、保育施設や医療機関、高齢者施設で大規模なクラスターが多数発生している。
- 感染者数に占める中等症及び重症者等の割合は、第5波以前と比べて低い傾向は変わらないが、高齢者層への感染拡大とともに、頻度は低いものの感染者数が多いことから死亡者は一定数発生しているため、今後も注視していく必要がある。
- 医療体制については、2月14日時点の確保病床使用割合は54.3%と50%を超えているが、2月上旬以降横ばいであり、医療フェーズは緊急フェーズⅠのままとなっている。

### 【レベル分類】

- 県内の新規感染者数は、高い水準にあるものの緩やかな減少傾向へ転じている。
- 医療提供体制についても、このまま感染者数の減少傾向が続けば病床使用割合は高止まりから徐々に低下するものと考えられる。
- 今後新規感染者数の再拡大がなければ緊急フェーズから通常フェーズへの移行も可能となることから、感染レベルは「レベル2」の状態と判断する。

### 【今後の対応について】

- 県内の新規感染者数は、高い水準は続いているものの、前週比は2月1日に1.0を下回り、それ以降断続的に下がっており、現状においてはピークアウトしたと見られる。

- これまでのまん延防止等重点措置により、夜間及び昼間の人流は緊急事態宣言並みに減少し、感染経路判明例に占める飲食や会食関連の感染割合も減少したことから、少なくとも若い世代に対する対策の効果はあったと考えられる。
- 今後、対策を緩和すれば当然人流は増えると思込まれるため、飲食店に対する時短要請等の緩和は段階的に行い、感染状況を注視していくとともに、再び感染が拡大する傾向が見られれば速やかに対策の強化を検討する必要がある。
- 学校等における児童生徒への対応については、クラスターの発生状況等を踏まえ、感染対策を十分に行ったうえで、活動等の過度の規制を行うことなく、段階的に日常生活に近付けるように見直す必要がある。
- 県民に対しては、再び拡大させないために、マスクの着用、手洗いと消毒、換気等個人の基本的な感染防止対策をより一層徹底することと、ワクチンの3回目接種の重要性を訴えていく必要がある。
- 医療機関や高齢者施設等においても、いつ感染者が発生してもおかしくない状況にあることから、当面高い警戒レベルを維持する必要がある。定期的な従事者の検査や医療福祉クラスター対応班との連携を含めた感染者発生時の初動対応を確認しておく必要がある。併せて、2月末までに実施するとした希望する高齢者へのワクチン接種も進めることが重要である。
- 自宅療養者については、軽症者用の治療薬も複数出てきていることから、併用薬の確認を含めかかりつけ医を中心として、オンライン診療も併せながらすべての医療関係者の協力を得て、必要な医療に繋げる体制を継続していくことが重要である。